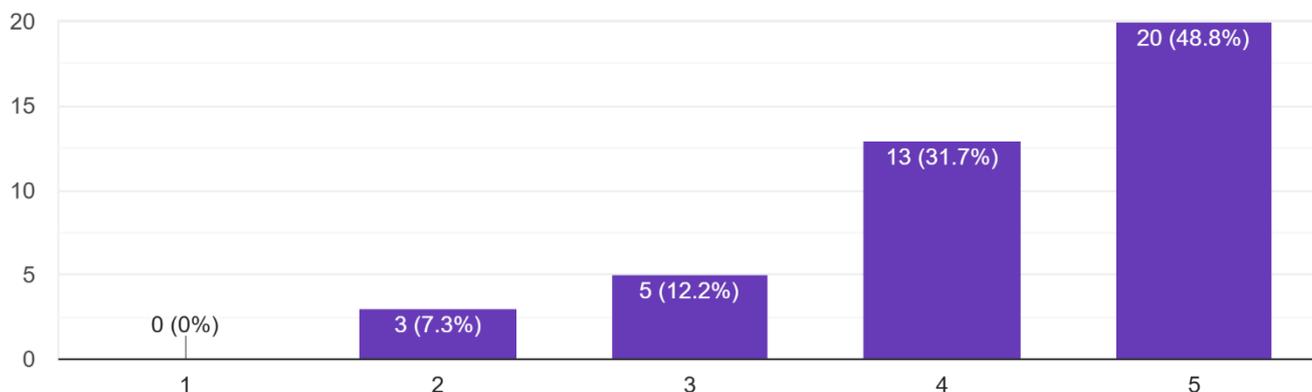


2024 年度教育活動についての自己評価

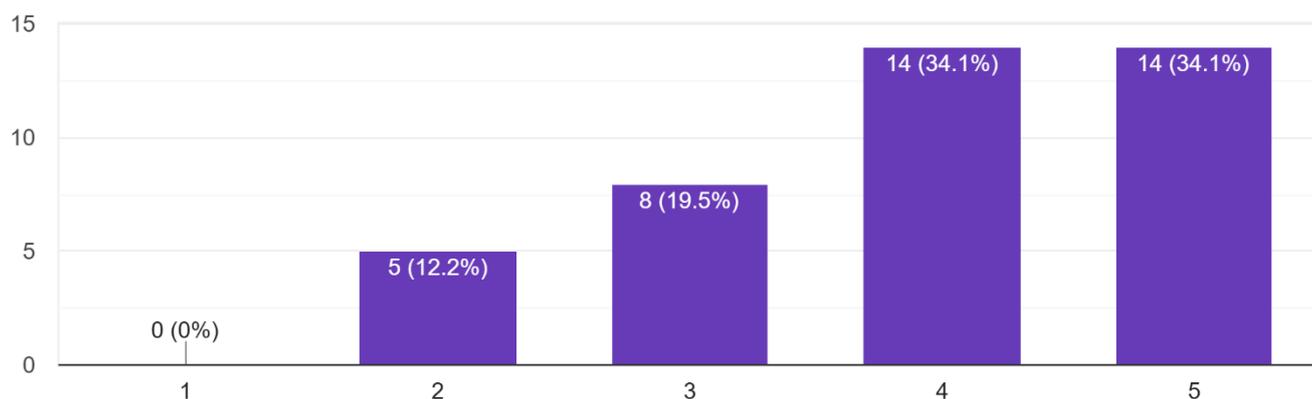
1. 行事について（運動会・作品展・発表会など）

41 件の回答



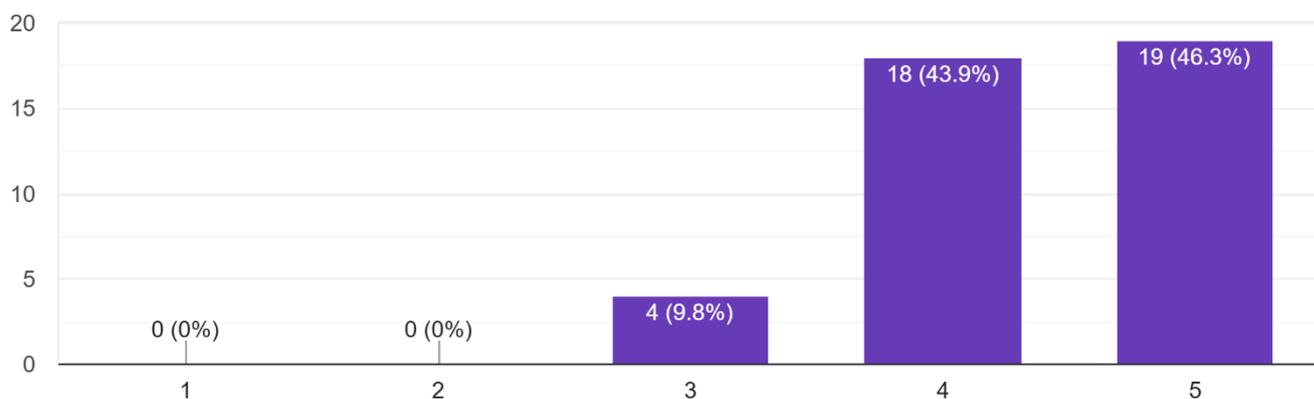
2. 保育参観について（回数・時期）

41 件の回答



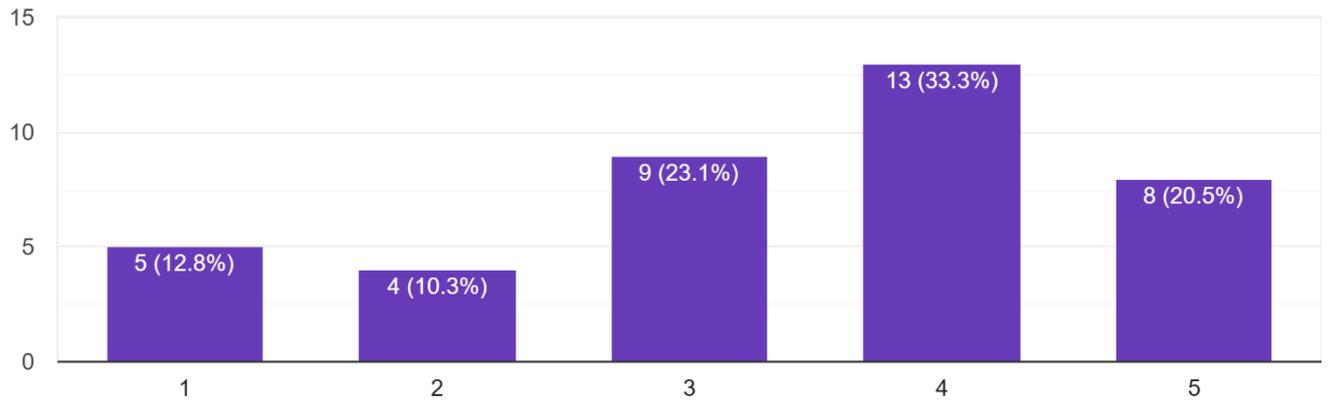
3. 先生の子どもたちへのかかわり方

41 件の回答



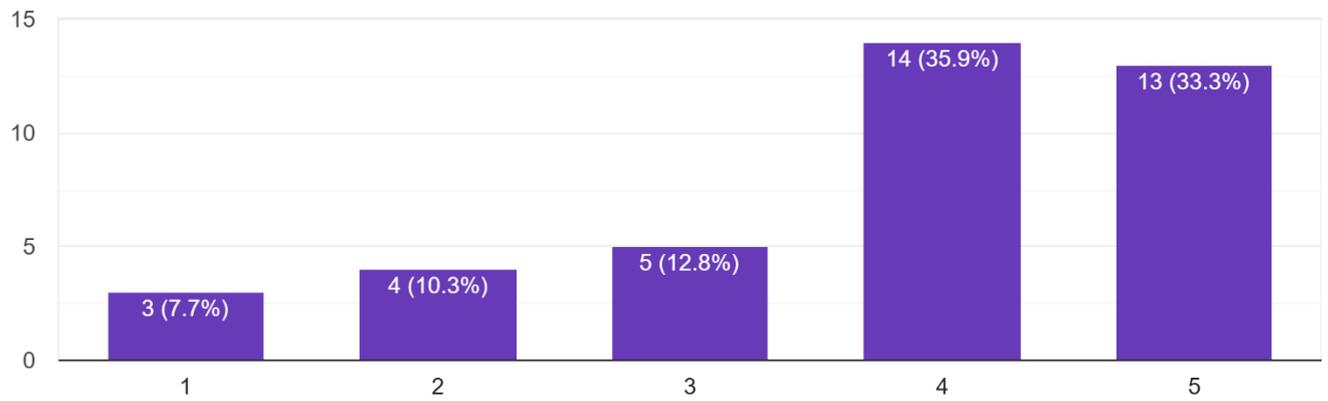
4. 預かり保育について①（申し込み方法・料金について）

39 件の回答



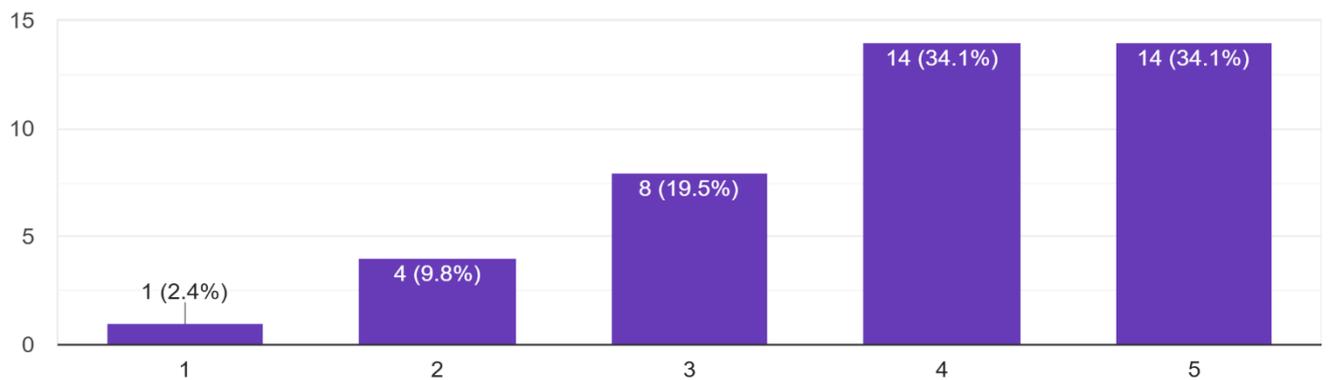
5. 預かり保育について②（実施内容）

39 件の回答



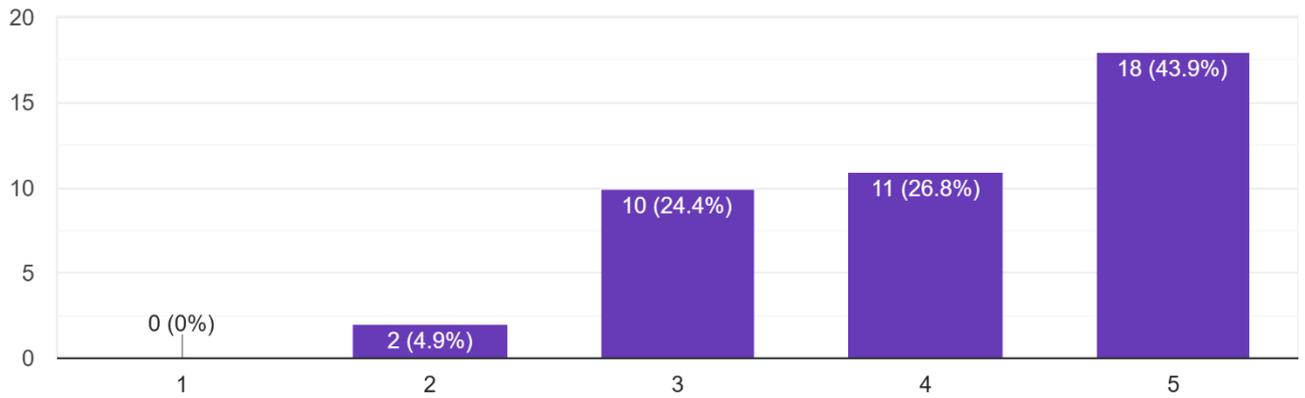
6. 施設設備について

41 件の回答



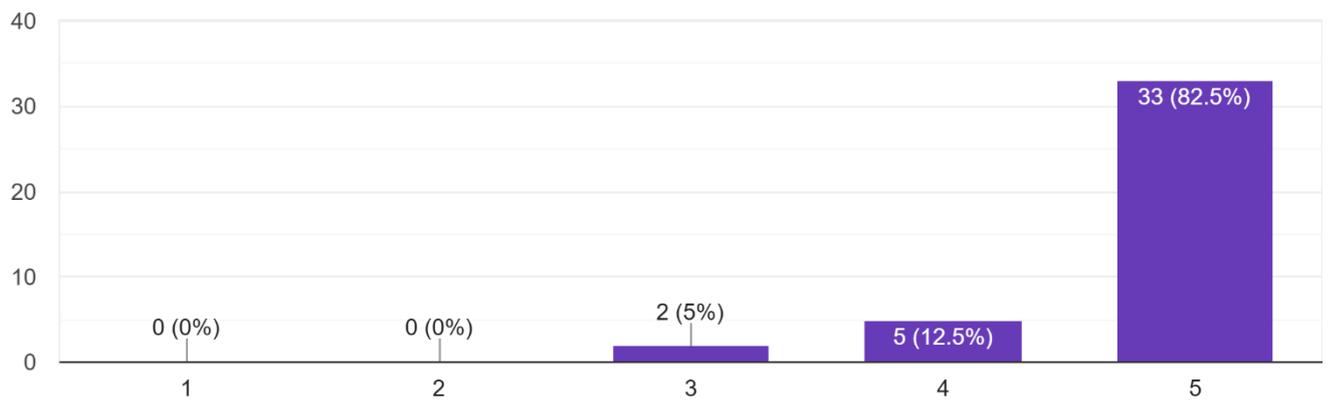
7. 園からの連絡・情報発信について

41件の回答



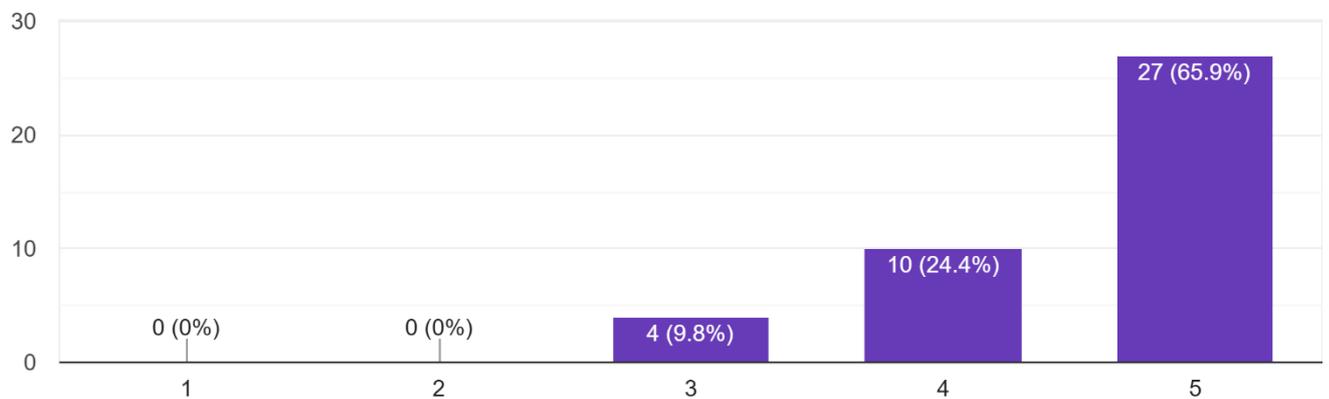
8. 給食について

40件の回答



9. 園外保育（遠足等）について

41件の回答



今回の教職員による自己評価を受け、下記の点について次年度は職員全体で検討し改善するよう努める。

- ① 行事については子どもたちの状況を的確に把握し、発達段階を踏まえて無理のないように取り組みを進めていく。
- ② 行事の実施時期については、例えば運動会の練習期間は熱中症をおこしやすい時期なので例年より少し時期をずらすなど配慮をする。発表会の時期については例年インフルエンザ等の感染症が流行する時期ではあるが、1年の締めくくりであるということから実施時期を変えることは難しいと考える。そこで、感染症対策に留意し子どもたちの体調管理に努める。
- ③ 預かり保育に関しては、通常保育期間および長期休業期間も利用家庭が大変多いことを受け、より利用しやすいように利用申し込み方法および料金、キャンセルの対応に関して改善する。
- ④ 預かり保育の内容については、外遊びを中心にしながら、室内での活動を充実できるように検討を重ねる。
- ⑤ 保護者への連絡については文書配布とメールでのお知らせを併用していることが多い。メールでの連絡が確実かつ早く確認して頂けるので今後もメール中心にしながら文書配布も必要に応じて行っていく。同日に複数のメールを送ることが度々あるので注意したい。
- ⑥ 保育参観の時期については実施時期を検討し特に同じ月に集中しないようにする。また、子どもたちの集中できる時間を考慮した上で、30分前後の実施で検討する。
- ⑦ 施設については開園13年目となりエアコンを中心とする電気系統やトイレ等の水関係のトラブルやカーテンの汚れ等が多かった。4月に建設を請け負った業者による総点検を実施することで回収の必要箇所は早急に対処できるようにする。

学校関係者評価

令和3年度のECEQ公開保育に引き続き4年度、5年度、そして6年度においても自主的に公開保育をするということで案内をいただいた。堺市内の私立幼稚園園長会の方々に加え、近隣の公立小学校の校長、堺市教育委員会の指導主事の方も招いての全職員が保育活動を公開すると聞き、参観を楽しみにしていたが、当日の参加ができず残念であった。

当日は、子どもたちの輝くような笑顔、そして先生たちも笑顔で活動を楽しんでいたことや、公開保育後の協議会でも参加者からの感想、本時の保育に関する指導助言を聞くことができ有意義な公開保育になったと報告を受けている。

また、全教職員が教育内容・教育計画を共通理解のもとに、自分自身の強みと課題を把握する中、公開保育に向けて保育内容の精選、取り組みを進めてきたとの報告も受け、開園12年目の鳳幼稚園として着実に保育実践に取り組んでいると感じている。

園内研修として毎月の保育をドキュメンテーションにして発表し、また、年度末には「10の力」のどの力を付けることができたかを考え、自身の言葉で伝え合う機会を持ったと聞いている。各保育者が行っている保育活動で子どもたちにどんな力をつけることができたかを年度末の振り返りとして行ったことはとても有効な研修であり、次の年度への大きなステップになるのではと期待している。開園13年目となる令和7年度も更なる園児の健やかな成長・発達および職員の資質向上に繋がるよう願っている。

また、令和8年度より幼稚園型認定こども園移行に向けての準備を進めていると聞いているが、様々な個性、家庭環境の子ども達の一人ひとりを大切にしたい鳳幼稚園であることを願っている。

元 堺市立福泉中央小学校 校長 角谷 芳子

乳幼児期の手や足、そして脳を使う行為は発達を促す上で重要な役割があります。「気づく」「思考する」「試行錯誤する」などは、一人ひとりの成長過程のいろいろな育ちです。そして、これらの能力はできるだけ早期の段階から経験を通して身に付け、生きる力の根源として蓄えていくのが望ましいと考えられています。「造形」という取り組みは、絶えず手や脳を使い、考えることを主とした活動です。いろいろな色や形の材料を使い、自分の思いをイメージしていきます。その中で大切な思考力、想像力、発想力、集中力、また、空間認知力、リテラシーは0歳児から個々の能力として潜在的に持っている力であり、保育を通して身に付けるかがポイントです。

鳳幼稚園での「描く」「作る」造形活動は、まさに質の良い経験の積み重ねとなり、その役割を担うものとなっています。3歳児は表現するための身近な用具に出会い、使い方を学ぶ。繰り返し取り組みながら、物と関わり描く、作る楽しさを感じる。4歳児は、いろいろな材料、用具に関心を持ち使い方を身に付ける。描いたり作ったり、自分の思いやイメージを広げながら表現することを楽しむ。5歳児は、いろいろな材料、用具を選んで使い、自分の感じたことや思いを表現することを楽しむ。自分の目的を達成するためにイメージを広げ工夫して表現する。仲間や友だちと共に思いを共有しながら活動し、一緒に喜びや達成感を味わい、互いに認め合うことが大切です。

年間10回程度鳳幼稚園で子どもたちの活動の様子を見ながら先生たちへの指導を行っています。上記に述べたことを理解した上で発達段階に合った活動を行い、主体性を持って自己発揮できる子どもを育むよう取り組んでいると実感しています。

元 大阪信愛女学院短期大学子ども教育学科客員教授
舟井 賀世子